



[Area25]とは、広島市立大学COC+事業の事業協働地域である25市町を示します。

大学、自治体、企業の協働による 人材育成事業がスタート

01. 地域の観光振興をテーマに 人材育成を進める協働協議会を設置

広島市立大学は、地域が必要とする人材の育成を一層推進するため、近隣の大学・高等専門学校、自治体、経済団体・企業、NPO法人と共に、「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業協働協議会」を、65機関の参加を得て設置しました。この協議会は、本学が文部科学省所管の「平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、大学、自治体、企業等の連携により地方創生事業を推進していくため、協働・協力をいただく母体として設立したものです。協議会の発足を兼ねた第1回会議は、平成27年12月24日、ホテルグランヴィア広島において開催。本学青木信之理事長・学長の挨拶、事業概要やスケジュール等の説明、参加機関による意見交換を行いました。



協働協議会の初会合

02. 「地(知)の拠点大学による地方創生 推進事業(COC+)」とは

COCはセンター・オブ・コミュニティの略称。大学は地域コミュニティの中核的な存在です。大学のこうした機能を更に強めようとする取組に対して、文部科学省が支援する制度として、「地(知)の拠点整備(大学COC)事業」が、平成25年度からスタートしました。大学と自治体が協力して、大学の教育研究や社会貢献機能と地域のニーズをリンクし、地域課題の解決に向けた取組を実施するものです。

平成27年度には、このCOCの発展形として、地方への「ひと」の集積を主目的とする「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」となりました。大学、自治体、経済団体・企業等の協働による取組を対象とし、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓し、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムを推進する取組を支援する制度となっています。

03. 参加65機関が連携

平成27年度のCOC+事業は、選考を経て全国で42件が採択されています。

申請には事業協働機関を構成する大学、

自治体、経済団体・企業等の同意書等の提出が求められ、本学では大学、広島広域都市圏の市町及び尾道市(25市町。平成28年2月現在)をはじめ、経済団体・企業等65機関の参加により、「観光振興による海の国際文化生活圏創生に向けた人材育成事業(申請事業名)」を実施することとし文部科学省から採択を受けました。本学のCOC+事業の計画内容は、本紙2ページ以降で紹介しています。

04. 若者の流出に歯止めを 地域を知るプログラムを実施

COC+事業の背景には、地方から東京等の大都市圏への人口流出が、とりわけ大学入学時と卒業・就職時に集中しているという課題があります。広島の大学においてもこの傾向は顕著で、こうした状況に歯止めをかけ、地域がそれぞれの特徴を活かして持続性のある地域社会を創生するためには、学生が地域の魅力を深く知るプログラムを設け、地域において活躍できる就職先や雇用の創出に取り組むことが必要です。地方創生のカギとなる人づくりの中心的な役割を担うのは、地域の地(知)の拠点である大学の使命であり、主体的にその責務を果たしていきます。

広島市立大学 COC+ 事業 「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業」の概要

05. 観光資源に着目し

地域に貢献する人づくり

広島市立大学 COC+ 事業は、学生が自ら地域の魅力を発見し、地域に根付き活躍できる人材として養成していくため、広島市と連携市町の恵まれた観光資源のポテンシャルに着目し、「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業」を実施していきます。文部科学省の補助により、事業期間は平成27年度から31年度までの5か年間、事業費は約2億6千万円です。

【人材育成の目標】

地域の観光振興に貢献する人材を育成します。本学のカリキュラムに地域貢献特定プログラムを設け、その履修を通して、観光振興をはじめとした地域課題に積極的に取り組む「ひろしま地域リーダー（仮称）」を養成します。

【主な取組】

①地域志向型の教育カリキュラムの充実

広島を知る、感じる、問う、挑戦する、の4段階で構成するカリキュラムへの地域特定科目の新設、関連する既存科目の拡充（下図は、広島市立大学 COC+ 教育プログラムのカリキュラムマップ案）

②観光関連データベースの構築・活用

人材育成教育や観光振興策の提案等に活用するため、観光関連情報を網羅的に集積し活用

③アートプロジェクト等の教育研究事業の実施

本学芸術学部を中心として参加大学と連携したフィールドワーク等の教育研究事業の展開



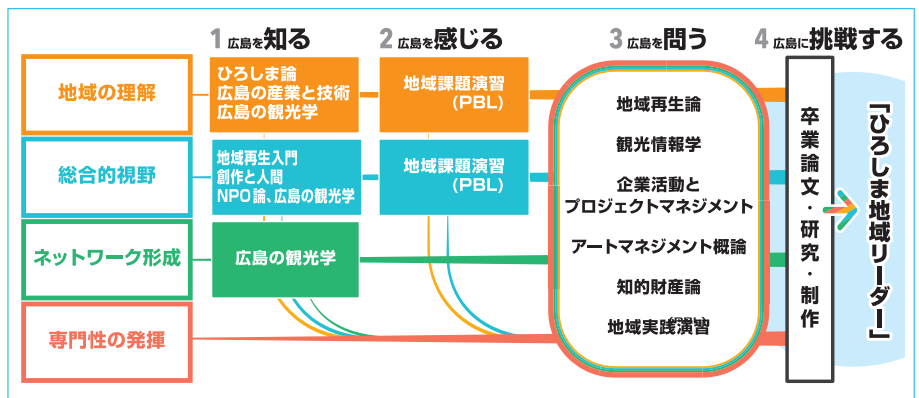
④インターンシップの強化

地元企業等によるインターンシップの受け入れ強化

【事業の概念図】



【広島市立大学 COC+ 教育プログラムのカリキュラムマップ案】



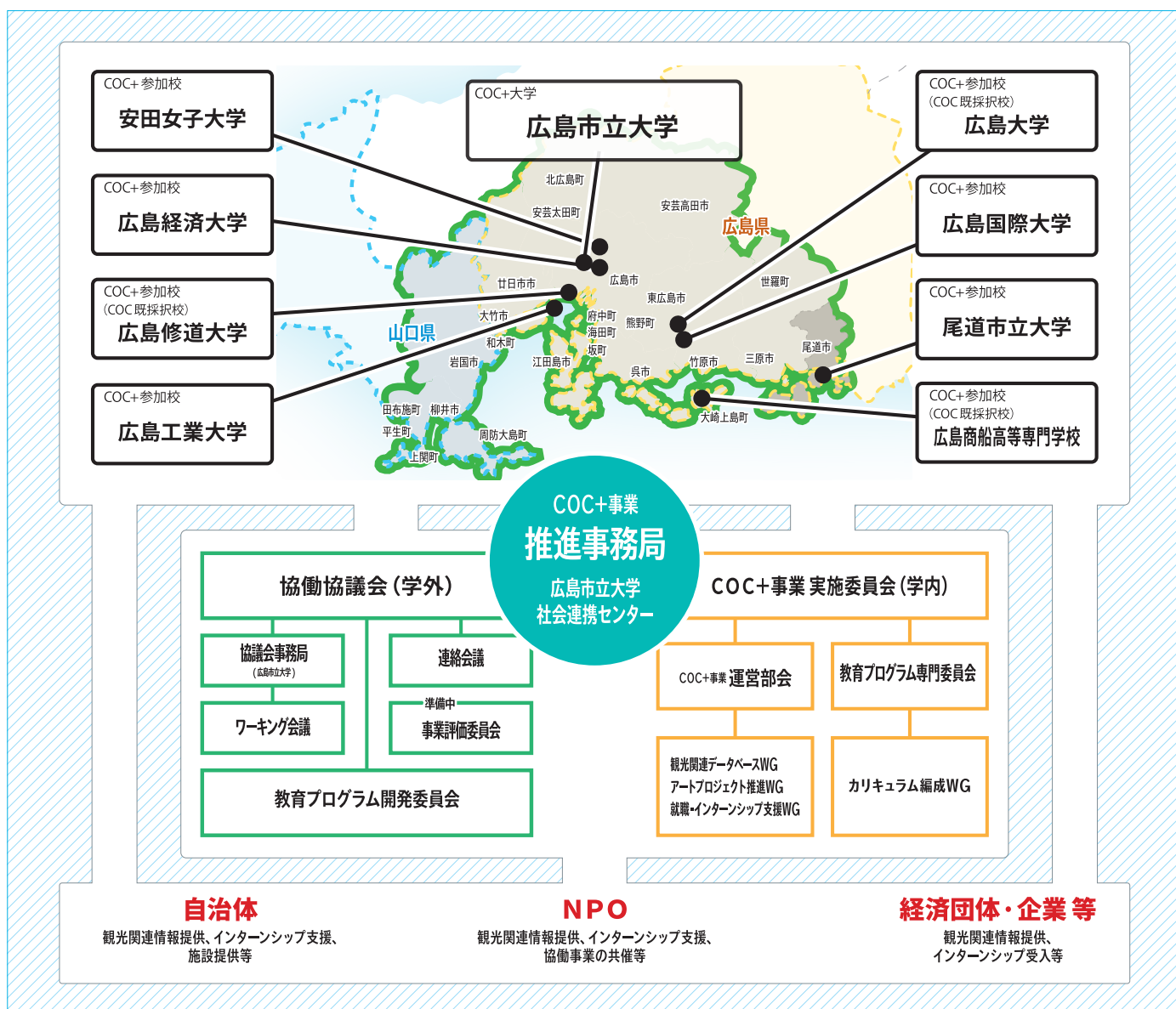


全国モデルとなる取組を目指して

事業協働協議会会長 広島市立大学理事長・学長 青木信之

本COC+事業では、大学、自治体、経済団体・企業、NPO 法人から65 機関に御参加いただき、協働して人材育成に取り組むこととなります。原爆ドーム、厳島神社の二つの世界遺産をはじめ、豊富な観光資源を持つ地域のポテンシャルを最大限に活用して、地域に根付き地域に貢献していく人づくりを進めます。新たに構築する観光関連データベースを活用した教育研究事業の実施など、地(知)の拠点大学による取組として、本事業を全国モデルとなるよう推進していきたいと考えています。関係の皆様、また地域の皆様の御支援・御協力をお願いいたします。

【事業推進体制図】



【事業成果としての目標値】

参加大学の地域就職率を平成26年度現在の41.04%から、5か年で10ポイント向上させ、平成31年度までに51.54%にすることを目指します。

06. 参加機関が協働・役割分担

本学を中心とした大学群は取組の①~④を主体的に実施します。自治体及び経済団体・企業等は、取組の推進に当たって各機関が持つ情報の提供や提案、地域との事

業協議の橋渡し、施設の貸与等で支援していきます。また、事業を円滑に推進していくため本学内に実施委員会やワーキンググループを設けるほか、協働協議会にも教育プログラム開発委員会などを置き、事業の開拓や進行管理を行っていきます。

3/5(sat) 大学・地域・企業をつなぐ人材育成 キックオフ・フォーラム 2016

メルパルク広島

第1部 14:30-16:40 6階 平成23

第2部 17:00-18:30 5階 桜

出で若者 愛でるはジモト

観光ポテンシャルを活かしたこれからの地域づくりや人づくりについて考える

広島市立大学COC+事業のスタートにあたり、参加機関をはじめ地域住民の皆さんと事業の意義や目的を共有し、協力や参加の下に事業を進めるためにフォーラムを開催します。原爆ドーム、厳島神社、瀬戸内海の多島美、水と緑に恵まれた中山間地域に着目し、地域の観光ポテンシャルを活かしたこれからの地域づくりや人づくりについて、スピーチと活動報告を通して考えます。COC+事業とは何か？事業責任者による説明も行います。

【第1部 フォーラム】

開会あいさつ 広島市立大学理事長・学長 事業協働協議会会長 青木信之

来賓あいさつ 広島市長 松井一實
文部科学省高等教育局大学改革官 山口良文

キーノートスピーチ/辻孝和(日本旅行業協会中四国支部事務局長)、
森信秀樹(広島経済同友会筆頭代表幹事)

活動レポート/平尾順平(NPO法人ひろしまジモト大学代表理事)、
今井みはる(公益財団法人みやうち芸術文化振興財団 学芸員)

COC+事業説明/若林真一(広島市立大学理事・副学長)

【第2部 交流会】

ゲストを交えたフォーラム参加者による意見交換の場。大学教職員や学生、自治体、企業関係者など参加自由。会費2,000円。先着60名。



キーノートスピーチ1

「この地域の豊かな観光資源を輝かせるのは誰か・若い感性への期待」

辻 孝和(つじ たかかず) ツーリズムアドバイザー

日本交通公社(現JTB)に入社し、旅行企画、外国人訪日旅行(インバウンド)をはじめ地域振興・コンサルティング業務など幅広く取り組む。2013年から一般社団法人日本旅行業協会中四国支部事務局長。中国地域観光推進協議会監事などに就任。松江観光大使、山陰・山陽花めぐり街道大使の肩書を持ち、瀬戸内から山陰まで中国地方の観光振興に向けた様々な助言・提言を行っている。



キーノートスピーチ2

「地元の人材を育てる大切さ・大学と企業の連携」

森信 秀樹(もりのぶ ひでき) 経済団体代表

大学卒業後1977年に衣料問屋に入社。1981年森信建設に入社。1991年代表取締役社長に就任。2013年より広島経済同友会筆頭代表幹事。広島をこよなく愛し、経済界から輝く広島づくりのために、都市環境、まちづくり、文化振興等の活動に熱意を持ち取り組む。経済同友会では学生の地元就職支援事業にも傾注している。



地元にごたわる-活動レポート1

「ひろしまジモト大学の挑戦」

平尾 順平(ひらお じゅんぺい)
まちづくり・生涯学習NPO 代表理事

広島市立大学卒業後、(財)日本国際協力センターに入団。JICAへの派遣を通してアジア、アフリカ等の人材育成事業を経験。海外での国際貢献活動をきっかけに、広島を見つめ直し広島の魅力と可能性を強く意識し、2010年ひろしまジモト大学を立ち上げ活動する。中国放送のラジオ番組「勝手にトークひろしま!」でメインパーソナリティを務める。



地元にごたわる-活動レポート2

「アートで地域をコーディネートする」

今井 みはる(いまい みはる) 学芸員

広島市立大学大学院芸術学研究所博士前期課程修了。大学院時代からアートマネージメントを現場で学び、プロジェクトの企画運営に携わる。2012年から(公財)みやうち芸術文化振興財団・アートギャラリーミヤウチの学芸員として活躍。これまで被爆70周年記念事業TODAY IS THE DAY未来への提案(アートギャラリーミヤウチ)、広島アートプロジェクト/ART BASE 百島(中区吉島/尾道市)などをコーディネートしている。

Topics25

COC+アートプロジェクト推進員 広島市立大学特任助教 三上賢治

広島市立大学特任助教の三上です。1月からCOC+事業の先導的教育研究事業としてアートプロジェクトの企画・運営を行っています。現在、事業協働地域内で取り組むアートプロジェクトの実施内容や実施場所について、本学芸術学部教員と一緒に準備・計画を進めていますが、例えば、宮島では教育研究活動拠点としてサテライトの設置を予定し、他大学と連携した古い町家をリノベーションするプロジェクトや地域交流ワークショップの開催、轆轤の人材育成等を検討しています。また、市内中心部や大崎上島、尾道、北広島町等、様々な地域で次年度へ向けた取り組みを行っていきたく考えていますので、皆様のご協力を今後ともよろしくお願いたします。



事業協働機関

(大学等9校) 広島市立大学、広島大学、尾道市立大学、広島経済大学、広島工業大学、広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学、広島商船高等専門学校
(自治体25市町) 広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町
(経済団体・企業・NPO法人32機関) 中国経済連合会、広島商工会議所、広島経済同友会、広島県経営者協会
オタクワソ(株)、(一社)尾道観光協会、呉信用金庫、(株)グリーンヒルホテル尾道、(公財)コミュニティ未来創造基金ひろしま、山陽工業(株)尾道国際ホテル、(株)中国新聞社、西中国山地観光施設等連絡協議会、日工(株)、(株)ハイエレコン、(公財)広島観光コンベンションビューロー、(株)広島銀行、広島市信用組合、(公財)広島市文化財団、広島信用金庫、広島電鉄(株)、(株)広島東洋カーブ、広島日野自動車(株)、(公財)広島平和文化センター、(株)福屋、(株)プリンスホテル グランドプリンスホテル広島、(株)ホテルグランヴィア広島、(株)ホライズン・ホテルズ ANAクラウンプラザホテル広島、マツダ(株)、(株)もみじ銀行、(株)山本屋、特定非営利活動法人キャリアプロジェクト広島、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター (企業等・NPO:五十音順)

【編集発行】広島市立大学社会連携センター COC+事業推進事務局
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号 TEL 082-830-1764 FAX 082-830-1555

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp>

38000000
地(知)の拠点